Obituary of the Late Dr. Masao Kitagawa

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2019-10-03 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: Satomi, Nobuo メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/2297/00055618

This work is licensed under a Creative Commons Attribution-NonCommercial-ShareAlike 3.0 International License.

p. 108. 平凡社.
大場秀章. 1989. アワブキ科.「日本の野生植物木本II」(佐竹義輔・原寛・亘理俊次・冨成忠夫編), pp. 23-25. 平凡社, 東京.
岡本省吾. 1941. 芦生演習林樹木誌. 京都大学農学部附属演習林報告 **13**: 1-126.
「天然林の生態」研究グループ. 1972. 京都大学芦生演習林における天然生林の植生について. 京都大学農学部附属演習林報告 **43**: 33-52.
Vogel, E. F. de. 1980. Seedlings of dicotyledons. 465 pp. Centre for Agricultural Publishing and Documentation, Wageningen.
Willis, J.C. 1985. A dictionary of the flowering plants and ferns (8 th ed., student ed., revised by Airy Shaw). 1243 pp. + lxvi. Cambridge University Press, London.
山中典和・永益英敏・梅林正芳. 1992. 芦生演習林産樹木の実生形態1. アケビ科, ウルシ科, ミズキ科, エゴノキ科, ハイノキ科, クマツヅラ科. 京都大学農学部附属演習林集報 **23**: 47-68.
山中典和・永益英敏・梅林正芳. 1993. 芦生演習林産樹木の実生形態2. クルミ科, カバノキ科, ブナ科, クワ科. 京都大学農学部附属演習林集報 **25**: 52-72.
山中典和・永益英敏・梅林正芳. 1994. 芦生演習林産樹木の実生形態3. ビャクダン科, マタタビ科, ツバキ科, マンサク科, トウダイグサ科, ユズリハ科, ミカン科, モクレン科, マツブサ科. 京都大学農学部附属演習林集報 **26**: 30-53.
山中典和・永益英敏・梅林正芳. 1995. 芦生演習林産樹木の実生形態4. モチノキ科, ニシキギ科. 植物地理・分類研究 **42**: 111-124.
山中寅文. 1975. 植木の実生と育て方. 256 pp. 誠文堂新光社, 東京.
柳田由蔵. 1927-1939. 森林樹木の稚苗図説. 日本林学会誌 **9**(6)-**21**(9).
Yasuda, S. and Nagamasu, H. 1995. Flora of Ashiu, Japan. Contr. Biol. Lab. Kyoto Univ. **28**: 367-486.
張若蕙・劉洪譚・汪祖譚. 1993. 中国主要樹木幼苗形態. 266 pp. 科学出版社, 北京.
(received October 17, 1995; accepted October 30, 1995)

○ 里見信生：**北川政夫先生を悼む**　Nobuo Satomi : Obituary of the Late Dr. Masao Kitagawa

第2次世界大戦が終結して，私は兵役を解除され，昭和21年（1946）秋に千葉農業専門学校（現在の千葉大学園芸学部）に就職した。同じ頃，北川政夫先生は旧満州（現在の中国東北部）より内地に帰還されて，農林省の開拓研究所に勤務されることになりました。

これにより，私は先生に御拝眉を得る機会があって，親しく御教示を賜る御縁が生じましたが，その一方では新宿・池袋の盛り場の屋台店ののれんを潜って，安酒のコップの数を重ねつつ，その勢で度々失礼なことを申し上げました。それにも関わらず先生は常に寛大であり，決して怒られることもなく，逆に目を懸けて下さり，野外の調査にしばしばお誘い下さいました。この中で，特に思い出深く残っているのは福島県白河市にある農林省種畜牧場の仕事で，計4回，延16日間，起居をともにして場内の調査を行いました。この間の或る日，馬に乗って那須山の採集行にお伴致しましたが，こんなことは勿論後にも先にも1回だけの経験ですから，当日のことは今でも目に浮かびます。また，当時は食糧難の時代でしたから，家では縁遠い"銀舎利"（白米のご飯）を十分に食べさせて貰い，この世の極楽と涙を流したことも，なつかしい思い出です。

こうしたお附合の中で，先生は私を実質以上に評価して下さったようで，先生が昭和25年（1950）8月，横浜国立大学教授に就任されて間もなく，「僕のところで助手に採用するから考えるよう」と言って下さった。早速「お願いします」とお受けしたので，事務手続を進めて下さった。しかし，それにも関わらず，私の意志に反して，金沢大学に赴任しなければならぬこととなり，先生に対して，お詫びしてもしきれない重荷を背負うことになってしまった。

それより時は流れて45年，この間常に御恩の万分の一にすぎなくても，いつか御返し出来たらと，心掛けて居りましたが，実際は何もすることがない内に，幽明相隔ってしまった。只今，悔んでも悔みきれない気持で満ちあふれている。

心からご冥福をお祈り致します。

（〒921　金沢市久安4-359　359 Hisayasu 4, Kanazawa 921, Japan）